

メンバー： 坂本悠輔(自然科学研究科 M1) 福田翔大(新学術創成研究科 M1)  
千葉啓登(地域創造学類 1年) 中本祝音(地域創造学類 1年) 向晴人(地域創造学類 1年)

担当教員:人間社会研究域地域創造学系 講師 坂本貴啓

## プロジェクトの概要

能登半島大地震の被災を受けて被災地の子供たちへの興味関心,思い出に残る催しが少ないと感じたため子供たちが楽しみ思い出の品を持ち帰られるイベントの開催を目的とする

そこで持ち運びが便利である服に注目し,服にプリントするシルクスクリーンの教室を子供向けに開く,被災地外持ち込むことで被災地でも楽しんでいる様子をアピールする場を作ることによって今後の活動に繋がると考えている

## そもそもシルクスクリーンって？

シルクスクリーンとは 網目状の生地の上に木枠を取り付けたものにプリントをしたい部分に孔を開け,そうでない部分の孔を閉じるのだが,その際に**専用の接着剤**で行う方法や,**感光剤**で行う方法が多数ある.

作成された版の孔部分に**インクを落とすこと**でプリントが出来る.

代表的な使用例として,**服・トートバッグ・リモコン**等がある.

基本的には**平らな面の上**であればインクを変えることでどんな素材にもプリント出来る.



作業風景

## 珠洲市の子どもたちと服と幸せを届けたい！

### 【プロジェクトを立ち上げたきっかけ】

ボランティア活動のハードルを下げたいという団体信念を達成するために、被災者の方はもちろん、ボランティア活動に参加してくれる人も楽しめるイベントを行いたいと考えていたとき

コアメンバーが趣味で行っていたものを被災地の子供たちと一緒に作っていくことで、思い出の品が残ること、なにか一つの大きな作品として外部へ発信していけるのではないかと思い、シルクスクリーンを採用した企画を始めた。



子供たち自作プリントのtシャツ



服幸横断幕

### 【取り組んだこと】

- ・珠洲、輪島の小中学校を中心に（計7カ所）でのワークショップ
- ・東京都墨田区「電気湯」にて「服幸横断幕」展示
- ・他団体のシルクスクリーンアシスタント

違う団体の方から布製品の印刷について聞かれる



活動の**トレードマーク** =シルクスクリーン



他団体の手ぬぐい

### 【まとめ】

子供たちが楽しめるイベントそのものを企画・制作することができた点は、大きな成果である。ただイベントを実施するだけでなく、プロジェクト名が示す通り、「服」と「復興への思い」を他県へと「届ける」段階まで取り組めたことに意義があった。また、様々な方々と関わる中で、シルクスクリーンは老若男女を問わず楽しめるだけでなく、新しい形を生み出す創作手法として非常に優れたツールであると実感した。一方で、活動の外部への発信という点については、まだ十分とは言えず、今後の課題であると感じている。

それだけでなくこれらの活動に当たって協力してくださった、  
珠洲市教育委員会・子ども食堂「にこまるパン」・KATARIBA・活動の助っ人に来てくださった皆さんに感謝の御礼申し上げます

子供たちのデザインが世界に届きますように！



SUZUNOTODAI

Webサイトににつきましてはただいま作成中でございます  
そのためInstagramより活動の様子をご覧ください